

自己点検・自己評価による評価および学校関係者評価

泉州看護専門学校
2018年7月1日

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者委員よりのご意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	理念や目的は入学案内・ホームページにも載せており、また育成人材像も含め、学生便覧に分かりやすい表現で載せている。入学後のガイダンスでも説明を加えながら伝えている。	理念・目的・育成人材像は本校の絶対的教育方針に繋がるものである。文章としては明確化しており、誰もが目にすることが出来る状況にあるが、さらにこれらを日々の教育の中で実践につながるような教育方法や内容の工夫・実践力が問われていると思われる。	4	理念・目的等はすべて教室や講堂に常に掲示されており、教職員も常に意識しているし、外部講師もそれらを意識し、理解している。課題は学生にいかに早い時期に理念・目的を理解させるかにある。
	1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	学生便覧の中に『めざす看護師像』として記しており、その内容は、看護の専門職者として求められる専門知識・技術・技能を身につける前提として、感性豊かで人権思想に裏付けられた科学的な人間観・健康観と集団の中での人材育成や仲間意識を重視している。設置主体である法人の医療観(綱領)に基づき、対象を生活と労働の場で歴史的に捉えることを核としている。	看護基礎教育は、卒業時に専門職業人としての知識・技能においては基礎的なレベルを正確に理解し、実践できることが重要である。もっとも重視されるべきは、学習者自身の人間的成長発達を集団の中で図ることにあると考える。学習者自身の主体的な学ぶ意欲、科学的な探究心、対象に対する謙虚で誠実な人格の育成が重要であるが、集団性や主体性、謙虚さや誠実性については、3年間を通じた基礎教育でもまだまだ課題が多い。これまでの行事やクラス運営といった集団を重要視しながら、さらに個々の成長に向けた取り組みが必要と考える。	4	患者の立場に立った看護、患者に寄り添った看護をめざす教育が行われている。看護師としての基礎的な知識・技術の習得を着実に進めている。又学生の学習には学生集団の中でお互いに協力しながら学ぶという習慣づけを、班学習や全学合宿の中で行い、医療現場で必要な集団行動への準備が十分できている。
	1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	科学的な物の見方・考え方を育て、生命に対する尊厳を深めるために、「哲学」「生物学」「物理学」とさらに「憲法学」を科目立てしている。成人看護学概論では、「生活と労働の場から学ば見学実習」として、病院・診療所にかかりながら働いている労働の場に行き、1日学ぶという見学実習を行っている。また、全学合宿・学院祭・創作発表会といった行事を学生主体で実行委員会形式で行うことにより、自主性・民主性・集団性を高める取り組みとなっている。	それぞれの科目では、様々な視点、見方・考え方を学ぶ事が出来ていると思われるが、様々な学びから個々の「人としての核」となるものの見方や考え方がなかなか育っていないように感じる。3年間で経験する講義や実習、行事などでの学びが個々の成長、自主性・民主性・集団性をさらに高められる取り組みとなるよう、行事についてあらためて振り返り、教員の関わり方なども検討が必要と考える。	4	専門教育だけでなくいわゆる一般教育と言われる科目についても十分配慮がなされており、学生の人格形成に大いに役立っている。また、全学合宿、学院祭等を学生が主体的かつ自主的に運営する中で、看護師として必要な、課題の解決能力の育成にも努めている。
	1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	18歳人口の減少から、4年制大学への入学希望者が増えているが、同時に将来の職業として手に職を付けることが求められていることから、看護専門学校への進学者も大きく減少することはないと考えられる。その際、高校卒業生だけでなく、大学卒業生や他職種経験者も今後も少なくないと考えられ、様々な生活背景や家族背景に関わらず学べる学習環境を留意している。2018年の新校舎建設移転に際しては、様々な状況に対応できる実習室となるよう工夫を行った。状況設定モデル「シナリオ」の導入を含むシミュレーション室もその一つである。	さまざまなシチュエーションにおいて、状況把握を行ったりアセスメント力が求められるなか、臨地実習では限られた経験となってしまうため、学内で色々体験できる演習が重要となってくる。新たな器具や装備を活用し、学生の経験が深まるような学習内容を検討・実施していくことが求められる。	3	社会人入学の制度を積極的に取り入れ、多様な経験を持っている学生の獲得に努めている。また新校舎においては最新の設備を取り入れ、学生が学ぶ環境の整備に尽力している事が感じられる

2 学校運営	2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	運営方針については、教育理念に沿った教育目標をもとに、学校の運営方針を定めており、毎年年度初めの教務会議で報告と確認を行っている。教務会議は月2回行い、学校運営状況の確認を行っている。	運営方針は毎年年度初めに立案・確認され、年度末にその総括を行い、次年度に繋げている。しかし、年度末だけでなく、日常の中でも運営内容の確認や振り返る機会が必要だと思われる。	3	学校運営に関しては、理念に沿ったその年の学生の状況を加味した学校方針が定められ、教員間で確認し日常の運営に当たっている。また、教職員だけでなく、非常勤講師を含めた講師会では、理念に沿った教育について討論がなされている。
	2-2 理念等を達成するための事業方針を定めているか	4	年度初めに学校運営方針をたて、それをもとに各学年担任が前期・後期ごとに学年方針を立てている。夏季休暇前、冬季休暇前にはそれまでの総括を行い、それ以降の教育方針を明確にしている。	学年毎の方針は、本校が定めた「学年別到達目標」をもとに、そのクラスの特徴も踏まえて立てられており、個別性のあるものとなっている。しかし、総括の際、達成できなかった方針もあり、今後の方針達成に向けて、さらなる指導に励む必要がある。		年々、青年への指導に課題が生じるなか、日常の業務に追われがちであるが、理念や学校方針・学年ごとの方針に今後もこだわり、人は必ず成長・発達することを確信に、教育にあたってほしい。
	2-3 学校運営のための組織を整備しているか	4	本校の管理運営にあたっては、組織図のもと、管理委員会、学校運営委員会を設置し、それぞれの任務および審議決定事項も規定されている。管理委員会は1か月に2回、学校運営委員会は2か月に1回開催している。	今年度新校舎移転に際して、改めて組織図と学校管理について整備を行った。それまでは学校運営委員会が3か月間隔があくことがあったが、今回の整備で2か月に一度は開催され、学校運営の状況をタイムリーに報告・共有できるようになった。今後も継続していきたい。	4	新校舎建設にあたり、法人だけでなく本校関係者が学校の存在意義についてこれまでの泉州看護専門学校の歴史を振り返り、今後に向けて組織図や学校管理の整備を行い、会議の定例化の再確認もされ実行されている。教員の組織体制も整備されている。しかし、日常の学生指導やクラス運営にあたっては、分業にならないようそれぞれが連携して細やかな教育体制を今後もさらに整えてほしい。
	2-4 教員の組織体制を整備しているか	3	学校管理委員会は学校長、副学校長、事務長、教務主任、副教務主任で構成し、各学年は担任、副担任で構成されている。各学年会議には担任、副担任に教務主任または副教務主任が入り、指導・相談にあっている。また、臨地実習担当として実習調整者を配置し、実習にかかる全般を担っている。	教員の組織体制は整っているが、管理者以外は担当学年や役割が毎年変更するので、初めての役割を担った教員に対しては 今以上に細やかな指導・援助体制を整える必要がある。	人事等については法人理事会において確認がなされている。規定されたものを今後再確認・討議を行いながらよりよい学校運営を継続してもらいたい。	
	2-5 人事・給料に関する規定等は策定されているか	4	人事については、学校管理運営規定により、法人理事会で決定される。給料規定も策定されている。	学校職員人事は法人の人事政策にも関連し、数年ごとに専任教員が配属されるよう、計画的に教員養成講習会を受講するようになっている。しかし、同年に複数以上の新任教員が配属されることもあるため、数年後を見通した人事政策の検討を今後も行っていくことが求められる。	3	教育目的に沿って教育課程が編成され、学生および教員・外部講師にも周知が図られている。
3 教育活動	3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針を定めているか	3	教育課程の編成方針については学生便覧に「教育課程の考え方」と文章化し明記している。	理念に沿った教育課程の編成方針は明確化しているが、実施方針の検討は十分でない。講師団会議での意見も参考にし、教務会議において実施方針の検討を図る必要がある。	4	立てられている学年ごとの到達目標が、講師団会議などで外部講師にも説明され周知が図られている。
	3-2 修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	学生便覧に「学年別到達目標」として明記している。	学年別到達目標を参考にし、各クラス担任は前期・後期毎に「学年目標」を立てている。学生にも毎年、「学年別到達目標」を確認し、自らの目標になるような働きかけが必要と考える。	4	限られた時間数の中で、工夫されたカリキュラムであると感じている。自然科学や社会科学など基礎的な科目の時間も確保し学生の人格形成に役立っている。
	3-3 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	教育課程は、指定規則に沿って「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」で構成されており、その中の科目立てでは、教育目的・目標に沿った本校ならではの科目も組み入れてある。授業科目については、授業計画(シラバス)を作成し、冊子を学生に配布している。	教育目的・目標に沿った教育課程であると考え、カリキュラム改訂後約10年が経過し、必要な項目としては網羅できていない内容もあるのでは、と思われる。数年後のカリキュラム改訂を見据え、講義すべき項目についてのマトリックス作成も必要になってくると考える。		

3 教育活動	3-4 教育課程について、外部の意見を反映しているか	2	教育課程については、本校が作成したカリキュラム(講義概要)によって講義を依頼している。科目のなかの講義内容については、講師の意見なども取り入れ、講義に組み入れていただくこともあるが十分とは言えない。昨年は、社会的に問題(話題)となっているB型肝炎訴訟団による講義を実施する事が出来た。	限られた時間数の中で、カリキュラムにあげられた内容以外の講義を取り入れることは困難ではあるが、可能な限り意見を取り入れて学生に伝える機会としたい。また、個々の講師からの提案や内容変更等があれば、検討していきたい。	3	実習先の病院からの意見を取り入れたり。講師団会議や講師との個々の打ち合わせの場などで、講師との意見交換も行い、外部の意見を取り入れている。
	3-5 キャリア教育を実施しているか	3	看護師に必要な知識・技術・技能のみならず、職業人としての自覚や態度を身につけるキャリア教育については、各実習において学ぶ事が多いと考える。さらに、学校行事(全学合宿や学院祭)をすべての学生がなんらかの役割をもって、企画・運営をすすめる実行委員会形式によって、集団討議することや相手の意見を聞くこと、自らの意見をいうことなどは将来看護師という職業にとって、重要な体験となっている。卒業前には、病院看護師より看護師としての生き方についてなどの特別講義をして頂いた。このことが卒後に繋がっていればと考える。	キャリア教育については、主に実習や行事の取り組みの中で結果として学んでいる現状であるが、入学時のガイダンスや学年ごとのクラス運営・学習環境づくりの中でも考えていきたい。	3	職業人としての意識を身につけさせる教育は入学式の準備段階から、決意文を考えさせることなどで始め、たくさんある学校行事に学生全員が主体的に参加することによって自立性と協調性を高める努力が常に行われている。
	3-6 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	看護師養成所設置基準に規定された専任教員の配置数を確保している。すべての専任教員が看護教員養成講習会の受講を終了しており、資格・要件は満たしている。	本校は原則として、看護教員養成講習会の受講を終了したもののみの配置となっている。規定数以上の配置は困難であり、今後も資格・要件を満たした教員確保を維持しなければならない。	3	専任教員についてはすべての教員が教員養成講習会の受講を終えており、資格・要件は備えている。それぞれの教員の研修も保証されているが、専門的な研修会に参加できていない教員もいること。また、教育機関であるということから、保護者への対応等についての悩みを聞く機会も少なくなく、「教育とは」「指導とは」など教育に関する研修や学習を今後さらに深めてほしい。
	3-7 教員の資質向上への取り組みを行っているか	3	専任教員それぞれに年1回の研修を推奨し、資質向上に取り組んでいる。実際には、様々な研修会・学会に各教員は年数回は参加しており、看護師として、看護教員として、さらにはそれぞれの専門領域の研修にも積極的に参加している。	すべての教員が何らかの研修会や学会には必ず参加できていることは望ましいことであるが、今後はさらに専門領域に関する研修にもっと多くの教員が参加できるようにしていきたい。		専任教員の授業評価については講師団会議で報告を受けている。外部講師の授業評価の実施についても検討が必要である。
	3-8 授業評価を実施しているか	2	学校職員による講義・演習については授業評価を実施している。外部講師や実習についてはまだ実施できていない。	今後は、外部講師や実習についての授業評価の実施に向けて進めていきたい。	2	
3-9 成績評価・終了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	学則や細則に基づき、規定の出席率を満たした者が評価を受ける資格があり、学科試験・実習評価を受け、一定の評価以上で単位認定を行っている。	成績については、毎年4月に前年度の単位取得状況である成績表を学生および保護者に渡している。また、年度初め(4~5月)にクラス懇談や個人懇談を実施し、学習状況を共有している。さらに、国家試験に向けての対策や現状なども情報共有し保護者と学校で共に学生を支える基盤づくりに努めている。しかし、出席日数不足で試験受講資格を無くした学生も少なくなく、その都度本人・及び保護者面談を行っているが、そうならないような指導や関わりについて考えていきたい。	3	成績評価・修了認定の明示と運用は適切に行われている。	

3 教育活動	3-10 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	各学年とも、実数終了後実習総括を行い、臨地実習指導者や教員の参加のうえ、学びを共有している。 3回生の卒業症例発表会は事例を冊子にまとめて発表し、さらに卒業時には事例と「私の看護観」を冊子にし、卒業生だけでなく、臨地実習病院にも配布している。	1回生の実習総括には臨地実習指導者も参加いただいている。学生の振り返りだけでなく、指導者からの助言で他の学生や他施設の指導者・教員の学びにもなっている。今後も継続していきたい。 2回生の成人Ⅰ実習の症例発表会を2回生2月に実施。その後、投票により代表者が次年度の関西看護学生看護研究大会で発表を行っている。これも今後も継続していきたい。	4	各学年での実習の報告は実習指導者の意見も聞いて十分に行われている。 症例の研究においては患者の生活環境の分析まで報告させるほどに指導し成果の把握が適切に行われている
	3-11 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	目標とする看護師資格取得にむけては、日々の学習の積み重ねと実習での学びが重要であることを常々教員が語り、特に実習と看護師国家試験を結び付けて学習するよう意識づけている。	毎年、3回生になって「1回生の講義が大事だった」という。全ての講義が積み重なって知識と経験になるということ、1回生から理解し、学習を積み重ねていけるような関わりについて検討したい。	4	看護師資格の取得が目標であることは教育課程の中でしっかり位置づけられているが、1年時においては学瀬野医師が少々希薄な感じがする。3年時には明確になっていることから教育の成果が感じられる。
	3-12 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	2回生に進級時、1回生の学習成果を模擬試験で測り、その後の学習の動機づけにしている。 2回生の終わりからは、1～2か月ごとに模擬試験を実施し、個々の学習到達状況を把握し、国家試験に向けた対策につなげている。 既卒生の国家試験受験者に対しては春から連絡を行い、サポートしてきた。2名受験し、1名合格、1名は不合格となった	看護師国家試験対策は、1回生からとつつも、3回生になってから本格的な指導となっている。それも、実際には3回生は春から実習に集中する中、全ての実習が終わる11月からが本番となりがちである。1回生時から、主体的に学習に取り組めるような働きかけについて検討が必要。 また卒業生で看護師国家試験不合格者は、2018年3月不合格となった1名以外にあと2名いる(体調等の理由で受験せず)。この3名については、今後も連絡をとり、合格するまでサポートする必要がある。	4	教員の学習指導の姿勢、学生との対話の様子などから十分な指導体制が組みまれていると評価できる。また、学生はそれに応える結果を出している。
4 学修成果	4-1 就職率の向上がはかられているか	4	設置主体法人をはじめ関連施設との奨学生制度があり、7割を超える学生が関連施設に就職している。また、関連施設外も含め就職率はほぼ100%である。ただし、2017年度は助産学科への進学者が2名いたため、そのものを省いての100%である。	就職率は毎年100%であるが、設置主体法人および実習施設等関連施設への就職率は80%前後である。実習施設をはじめ関連施設からの要望もあり、この率をさらに向上したい。	4	毎年100%の就職率および国家試験合格率100%は、看護師養成所として必須である。 基礎学力の困難さは年々見られることであるが、入学した学生全員が希望する看護師として社会に羽ばたけるよう、1年次からの学習支援と国家試験対策、就職支援が重要である。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	3	2017年度の看護師国家試験合格率は現役生100%、既卒性50%であった。	2017年度は国家試験合格率は100%であったが、毎年ということにはなっていない。今後も100%合格に向けて1年次から取り組みを強化する必要がある。		
5 学生支援	5-1 学生相談に関する支援を整備しているか	3	学生相談については、担任等に関わらず誰にでも相談していいことを告知している。また本校カウンセラーと入学後全員面談を行い、カウンセリング相談の敷居を低くし、相談しやすい体制をとっている。	ここ数年、カウンセリングの希望者が少なくなっている。しかし実際には様々な問題や悩みを抱えた学生が少なくなく、より気軽に相談できるようなシステム作りが必要である。	4	学生・保護者に対する支援は十分なされている。今後はさらに学生・保護者が率直に相談しやすい環境維持に努めてほしい。
	5-2 学生の経済的側面に対する支援を整備しているか	3	入学前オリエンテーションおよび入学後のガイダンスで奨学金制度について説明を行い、日本学生支援機構の申し込みは事務手続きの相談・援助も行っている。 関連病院の奨学金希望者の相談を受けることもある。	経済的に困難な学生への支援体制はあるが、2017年度は奨学金を受けながらも授業料の延滞により卒業が危ぶまれたケースがあった。授業料遅延が発生した時点で早めに具体的な対応が図れるような支援が必要。		

5	5-3 保護者との連携体制を構築しているか	3	入学前オリエンテーションでは、学則を含めた学校生活について、学生本人だけでなく保護者にも伝え学業支援をお願いしている。 その後は以下の日程で懇談を行っている。 4月:3回生保護者との個人懇談 5月:2回生家族懇談会と個人懇談 6月:1回生家族懇談会と個人懇談 その他、必要時家族と連携し学生への支援体制をとっている	家族懇談会への参加状況はクラスの半分から1/3程度。もっと多くの保護者と連携が図れるような取り組みの検討が必要。		
6	6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	2	校舎を建設当時は30人クラス用に建てられていたため、40人クラスの現在は窮屈な教室である。 看護師要請に必要な施設・設備・用具については最低限以上のもの整備されているが、校舎が築40年近く経過しており、雨漏りがひどく、校舎のあちこち老朽している。地震が起きた場合の耐震構造もできておらず早急に対策が必要。	2018年秋、新校舎移転予定であり、耐震はもとより、40人クラスとしての広さ確保され、古くなった備品も点検し買い替えるものもあり、学習環境としては現在より整う予定である。	2	築40年近い歴史ある校舎で、古いながらも整備していると思われるが、昨今の災害発生を鑑みると、早急に対策が必要な状況である。2018年秋の新校舎移転に期待する。
	6-2 防災に対する体制は整備されているか	2	現校舎は耐震構造になっておらず、地震や津波による影響も考慮し、できる限り1階の教室を使用しないようにしている。 災害時の対策としては、毎年防災訓練において避難訓練を行っている。また、地震等で帰宅困難になった場合を想定し、帰宅困難セットを全学生および職員数準備している。災害時の安否確認等のシステムの構築ができていない。	安全対策としては何よりも災害による校舎の被害の恐れがあることから、新校舎への移転が急がれる。また、災害時の安否確認システムを早急に構築する必要がある。		
7	7-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3	高等学校の進路相談会には積極的に参加し、進路指導教員にも情報提供を行っている。 また、近隣校訪問や大阪府下の全高校に学校案内パンフレットおよび募集要項の郵送を行っている。	一昨年は大阪府下全域を対象に高校訪問に取り組んだが、2017年度は教職員体制により近隣校のみとなった。年間計画をたて、毎年実施できるよう対策をとる必要がある。	4	18歳人口減少の中、定員割れすることもなく、受験者数を確保できていることは、評価できます。 今後も高校等機関と連携を取り、学生確保に努めてほしい。
	7-2 学生募集活動を適切かつ効果的に取り組んでいるか	3	高校訪問に加え、業者主催の進路相談会や大阪府看護協会および看護学校協議会主催の進路相談会には積極的に参加し、オープンスクールの案内も行うことで学校見学につながっている。例年夏季にオープンキャンパスを3回実施。参加者が受験につながっている。	特になし		
	7-3 入学選考基準を明確化し、適正に運用されているか	4	入学選考の可否は入学選考基準により適正に審査されている。 また、受験者数は大きく減少することなく一定数を保っており、入学辞退者は数名見られたが、定員割れはしていない。	特になし		

8 財務	8-1 予算及び計画に基づき、 適正に執行管理を行っているか	4	予算・事業計画は設置主体法人に報告・確認しており、計画に基づき、適正に執行され、決算報告も適切に行っている。	特になし	4	予算・決算については、適切に行われており、問題はないと考えます。
	8-2 財務について会計監査が 適正に行われているか	4	法人監事による監査を受けるとともに、公認会計士による監査も受けている。	特になし		
9 法令等の 遵守	9-1 法令や専修学校設置基準 を遵守し、適正な学校 運営を行っているか	4	専修学校設置基準を順守し学校運営を行っている。	特になし	4	法令・設置基準は守られ、適切に運営されています。
	9-2 個人情報保護に対する対策 を講じているか	3	学生便覧等でオリエンテーションを行っている。 特に実習に際してはより具体的なオリエンテーションと誓約書、受け持ち患者には実習同意書を記載していただき、その中にも個人情報保護に関する内容が含まれる。	実習記録用紙の置忘れ等が無くならず、個人情報漏洩の恐れがあった。実習記録物の内容や取り扱いについて再度見直す必要がある。	3	個人情報保護に関しては、対策が取られているが、実習記録の置忘れ等が起きていることでは、そうならないための対策をとる必要があると考える。
	9-3 自己評価の実施と問題点 の改善を行っているか	2	自己評価の実施体制は数年の検討を経てやっと実施に至ったところである。また、授業評価については数年前より実施しているが常勤教員の講義のみとなっており、すべての講義及び実習評価には至っていない。	自己点検・自己評価をやっ行うことができ、本校の教育について改めて振り返ることができた。まだ評価できていない内容等についても含め、教育の評価を継続し、よりよい学校運営、教育内容となるよう努める必要がある。	3	自己点検・自己評価を行うことで、学校の現状の振り返りと課題が明確になり、学生に対してより良い学習環境を提供することにつながる。今後も継続した取り組みをしていってほしい。
	8-4 自己点検結果を公開しているか	3	ホームページ上に公開	特になし		